

活力ある健康長寿社会実現のための「群馬モデル」4つの戦略:ロードマップ



戦略1：フレイル予防を軸とする健康づくりのパラダイム転換

1 「フレイル予防」を軸とした健康づくりの促進

・2018年度：通いの場への高齢者参加率4%

・要支援～要介護2になる主な原因が、フレイル関連

・新しい日常に即した「通いの場」の方法

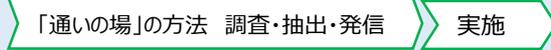
(1) 良好な社会環境(フレイル予防の受皿)の整備



(2) 市町村のフレイル予防を支援



(3) ニューノーマル(新常態)に留意した「社会参加」の検討



2025年度：通いの場への高齢者参加率8%

2023年度：全市町村でフレイル予防の取組を開始

2020年度～：調査・抽出・発信・実施

2022年度までにエイジング度(仮)の尺度を検討

2 健康な高齢化(加齢、健康、生活機能)の科学的・客観的な検討

・暦年齢ではない高齢化の尺度「エイジング度(仮)」が不明

(1) 「エイジング度(仮)」の基準の検討

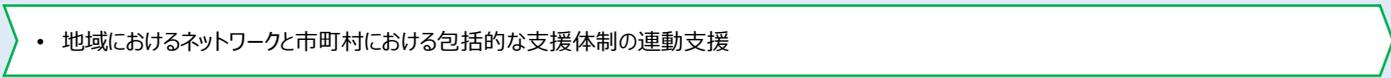


戦略2：社会参加・多世代交流の機会が確保できるまちづくりの推進

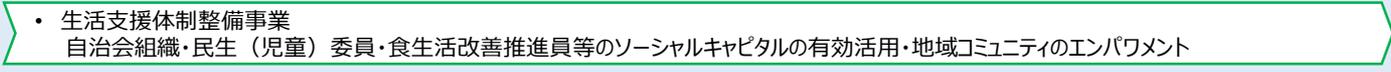
1 高齢化に適したエイジフレンドリーシティ概念の啓発

・2016年：地域の人々がお互いに助け合っていると思う者の割合が6割以下
・健康や医療サービスに関係したボランティア活動等をしている者が2.4%

(1) 地域共生社会や地域包括ケアシステムの推進



(2) ソーシャルキャピタル(地域資源)の有効活用



2022年度：助け合っていると思う者が65%以上

2022年度：健康や医療サービスに関係したボランティア活動等をしている者が28%

2 健康に関するデータ分析を強化し医学的エビデンスに基づく施策を推進

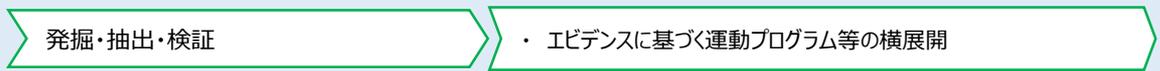
・医療・健診・介護・地域の健康課題の評価や検証が充分ではない

(1) 保健・医療・介護データの調査分析強化



2022年度：データ分析体制の構築

(2) グッドプラクティス(優良事例)の横展開



2023年度までに調査・検証し、2024年度から展開

・グッドプラクティスの抽出・県内での横展開が不足

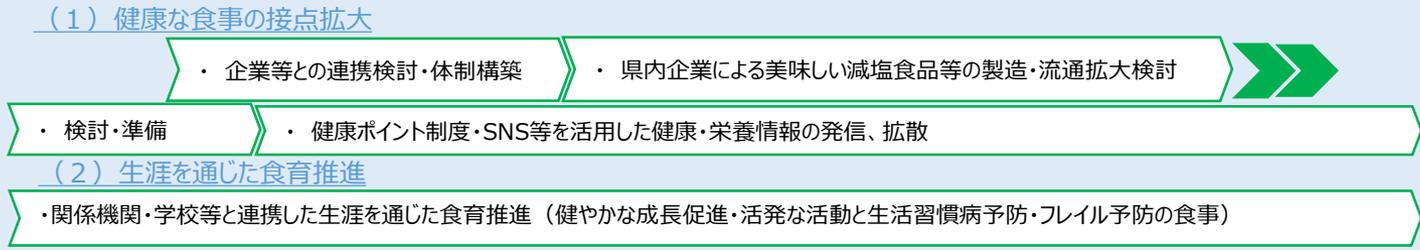
活力ある健康長寿社会実現のための「群馬モデル」4つの戦略:ロードマップ



戦略3：健康な食事と社会経済の持続可能性への視点からの食環境整備

1 健康な食事へのアクセス拡大

・2016年：食塩摂取量の平均値10g、野菜摂取量の平均値275g
・栄養バランスの良い食事が1日2回以上でほとんど毎日の者の割合は約40%

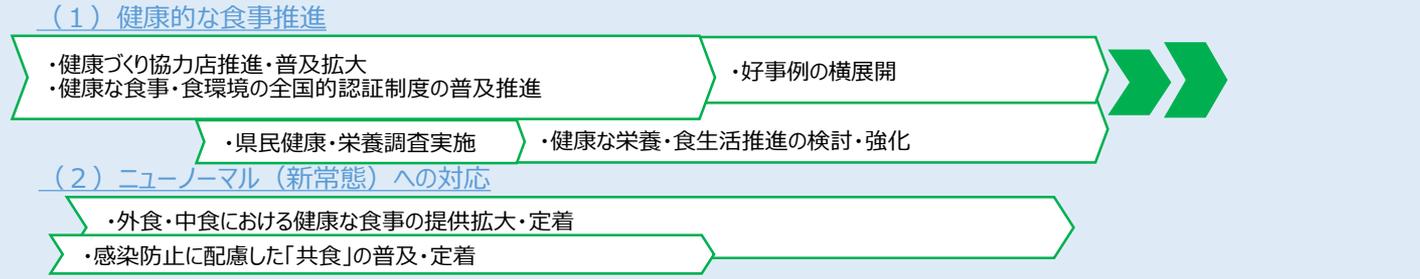


2022年度：食塩摂取量の平均値8g以下、野菜摂取量の平均値350g以上

2022年度：バランスのよい食事が1日2回以上で、ほとんど毎日の者が、80%以上

2 健康をめざした根本的な食環境整備の推進

・2016年：週2回以上外食する者は、約15%
・週2回以上持ち帰り弁当や惣菜を利用している者は、約30%
・新しい日常に即した「共食」の方法



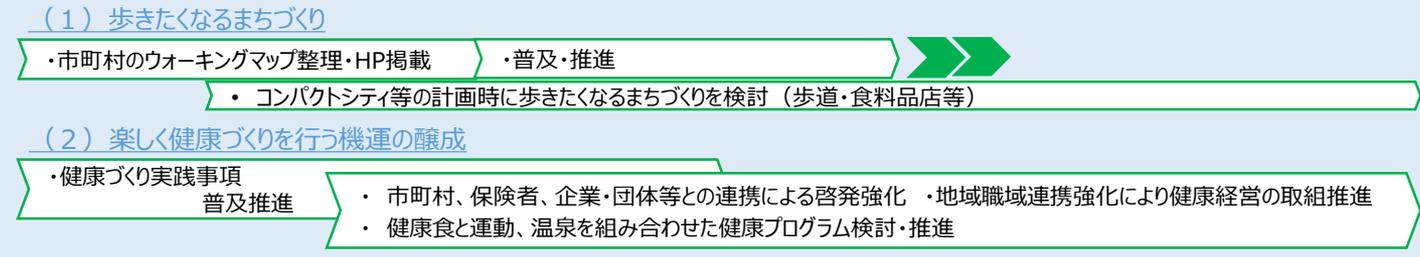
2022年度：食品中の食塩や脂肪の低減等に取り組む飲食店220店舗

2020年度～：調査・抽出・発信の実施

戦略4：健康無（低）関心層を含めたすべての県民が自然に健康になれる環境づくり

1 ゼロ次予防の推進

・全国より心疾患、脳血管疾患、糖尿病、慢性閉塞性肺疾患による死亡が多く、40歳代から、生活習慣病による死亡が急増
・2016年：歩数の平均は約6,000歩で、運動習慣のある者が少ない

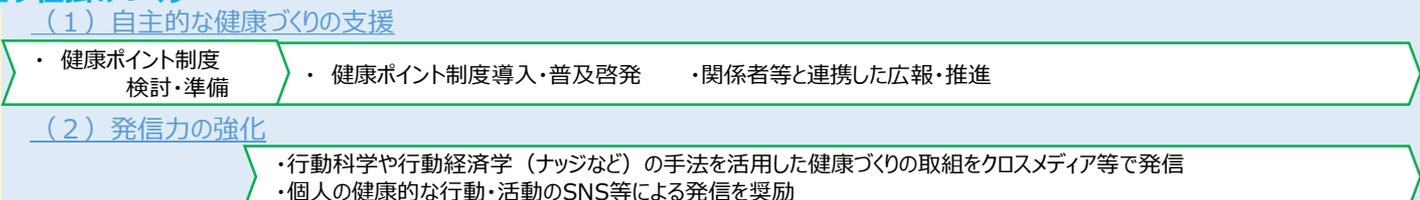


2022年度：一日あたり歩数の平均値が20歳～64歳8,000歩以上、65歳以上6,000歩以上

2022年度：糖尿病性腎症による年間新規透析導入患者数300人以下

2 行動変容を促す仕掛けづくり

・若い世代から生活習慣病の予防の取組が必要（食生活の改善、身体活動の増加、喫煙者（受動喫煙含む）の減少）



2023年度：健康ポイント制度アプリダウンロード12万人

2023年度：特定健診受診率70%